Ⅵ　幼・保等、小、中連携の充実

１　幼・保等、小、中連携の強化

（１）今年度の課題

ア　各中学校区における実態を踏まえた連携方法の見直しを図る。

イ　円滑な接続を意識した取組の充実を図る。

ウ　生徒指導に関する情報の共有化と連携の推進を図る。

（２）課題解決に向けた取組

ア　連携セミナーにおいて、実践校での公開授業、取組を紹介し、各中学校区における確実な実践に向け、実態を踏まえた連携方法の見直しについて指導を行う。

イ　「円滑な接続のポイント」を踏まえ、小学校における「スタートカリキュラム」の作成・活用による幼・保等と小学校との接続や、緊密な情報交換や交流による小学校と中学校との接続が円滑なものとなるよう、実践状況等の把握と指導を行う。

ウ　連携セミナー、生徒指導担当者研修会等において、生徒指導に関する情報の共有化を推進するために、基本的な生活・学習習慣の定着等、生徒指導に関する連携について協議の場の設定、講話等による指導を行う。

（３）取組の実際

ア　各中学校区における実態を踏まえた連携方法の見直し

各中学校区における実態を踏まえた取組として、本年度、上天草市立姫戸小学校を会場に開催された幼・保等、小、中連携セミナーにおける姫戸中学校区の取組を紹介する。

本校区では、姫戸ひかり保育園、姫戸小学校、姫戸中学校の１園・１小・１中で、「０～１５歳の育ちのなかで、みんなで姫戸っ子を育てる」をキーワードに、「まなび部会」「こころ部会」「からだ部会」の３つの部会を組織し、それぞれの「めざす子ども像」を設定され、達成に向けた取組が進められている。

また、家庭にも取り組んで欲しいことを「姫戸っ子のかがやき」として明示し、保、小、中と家庭・地域が連携した取組も進められている。

＜資料1:姫戸中学校区 「姫戸っ子のかがやき」＞

連携セミナー当日の午前の部では、３つの公開授業と分科会が行われた。

保小連携を視点とした姫戸小学校と姫戸ひかり保育園の交流授業は、高齢者施設を訪問するときのゲームの練習を通して、園児や入所者の方の気持ちを考えな

がら、発表練習をすることができることをねらいとして行われた。
　小中連携を視点とした姫戸小学校６年理科の授業では、姫戸中学校の理科担当教諭がゲストティーチャーとして参加し、その専門性を生かし、中学校での理科学習に向けての関心・意欲を更に高められるように工夫されていた。
　地域連携を視点とした姫戸中学校３年総合的な学習の時間の授業では、ボランティア体験や地域の方との交流を通して、保、小、中が連携して目指す子ども像である「家族や地域の人、先生や友人などに感謝する子ども、故郷に誇りを持つ姫戸の子ども」の育成を中心に、学習展開が図られていた。
　公開授業を通して、これまでの連携・交流の成果が子どもたちの育ちの姿としてうかがえた。

＜写真１：公開授業（保小交流授業）＞

＜写真２：公開授業（地域連携）＞

　午後の部は、「幼・保等、小、中連携の充実に向けて」と題して義務教育課担当者からの説明とパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、「まなび部会」「こころ部会」「からだ部会」の３つの部会の実践が紹介され、テーマ「連携カリキュラムの改善の視点とその実践」のもと討論が行われた。連携カリキュラムの改善を進めるうえで、参考になる視点と実践が紹介された。

＜資料２：こころ部会「改善の視点」＞

１　改善の視点

・将来の社会生活に向け、
　身につけさせたい態度の育成
・「学校・園での指導」から
　「いつでも、どこでも、誰に対しても通用する習慣の形成」へ

＜資料３：改善後の「こころ部会連携プログラム」＞

<table>
<tr><th>部会名</th><th></th><th>姫戸ひかり保育園</th><th colspan="3">姫戸小学校</th><th>姫戸中学校</th><th>めざす子ども像</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>低学年</th><th>中学年</th><th>高学年</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="8">こころ部会</td><td>あいさつ</td><td>先生や友だちに「おはよう」「さようなら」の元気なあいさつをする。</td><td>先生や友だち、地域の人に元気にあいさつをする。</td><td colspan="2">自分から地域の人や先生に明るくあいさつをする。
会釈をしながらあいさつをする。
時や場に応じたあいさつをする。</td><td>笑顔や一言を添えて、相手が明るくなるあいさつをする。
公の場や初めての場所でも場に応じたあいさつをする。</td><td rowspan="8">笑顔ですすんであいさつができる子ども</td></tr>
<tr><td>具体的な指導内容</td><td>登降園時に相手の目を見てあいさつをするよう働きかけをする。

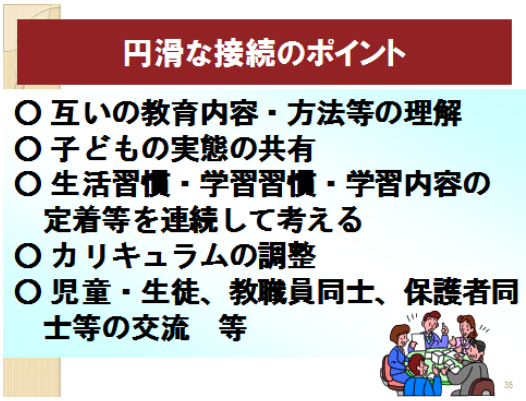
おはよう当番（園児）の設定を推進</td><td colspan="3">登校班でのあいさつ運動指導
委員会単位でのあいさつ運動指導
児童会を中心とした全児童による「笑顔の花プロジェクト」の推進</td><td>登下校時や校内でのあいさつ指導
生徒会を中心としたあいさつ実践の呼びかけ（GGP）
職員室への出入り等におけるあいさつ・礼法指導
家庭での取り組み啓発</td></tr>
<tr><td>返事</td><td colspan="5">自分の名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をする。</td></tr>
<tr><td>具体的な指導内容</td><td>朝の集まり・健康観察等での声かけ</td><td colspan="4">授業における学習訓練
授業・集会活動・部活動等での返事指導
家庭での取り組み啓発</td></tr>
<tr><td>伝えあい</td><td>「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉が素直に言える。</td><td colspan="4">感謝や反省の気持ちを、言葉や行動であらわす。</td></tr>
<tr><td>具体的な指導内容</td><td colspan="5">子どもの気持ちをしっかり受け止めた言葉かけ
日常の学校・園の生活において、教師・保育士が声かけや働きかけを行い、すすんで手本を示す。
家庭での取組啓発</td></tr>
</table>

姫戸中学校区では、姫戸小学校が平成２４・２５年度に「熊本版コミュニティ・スクール」の県指定校として取り組まれた内容を、保、小、中連携に取り入れ、地域との双方向の連携による１５年間を通した子どもの育成を目指して、連携カリキュラムの改善に取り組まれている。

天草管内においては、すべての中学校区において、連携協議会の設置、連携カリキュラムの作成が完了し、カリキュラムに沿った連携活動が進められている。

しかしながら、学校の統廃合や児童生徒等の減少、社会の変化など地域や子どもたちの実態は、常に変化している。距離等の事情から、直接の交流が難しい実態がある場合は、「行動連携」よりも「目標連携」に重点を置き、それぞれの実態に応じた連携体制づくりが必要となる。

＜資料４：円滑な接続のポイント＞



＜資料５：スタートカリキュラム　スタートブック＞

イ　円滑な接続を意識した取組の充実

円滑な接続のための取組の一つである「スタートカリキュラム」を活用した取組については、校区内に幼・保等を有するすべての小学校において、スタートカリキュラムが作成されており、それを活用した取組が推進されている。今後は、新入学児童の実態を踏まえて、スタートカリキュラムを見直し、活用していく必要がある。

スタートカリキュラムの意義やスタートカリキュラムを編成・実施するに当たっての留意点等については、国立教育政策研究所から、教員向けパンフレット「スタートカリキュラム スタートブック」（平成２７年１月）が発行されたので、ぜひ活用をお願いしたい。

小、中学校間の接続については、小中合同の行事への取組や教員の乗り入れ授業等、緊密な情報交換や交流によって、円滑な接続を意識した取組が行われている学校が増えてきている。今後も、中１ギャップの未然防止に向けて、生活習慣・学習習慣・学習内容の定着等を連続して考え、県学力調査（質問紙調査を含む）等の結果も参考にして、円滑な接続となるよう取組を工夫する必要がある。

ウ　生徒指導に関する情報の共有化と連携の推進

幼・保等、小、中連携を推進し円滑な接続を図るうえで、特に生徒指導に関する情報の共有化を図ることが重要である。また、日常的に生徒指導に関する連携を深め、児童生徒の指導にあたることが重要であると考える。

生徒指導に関する情報の共有化を推進するために、基本的な生活・学習習慣の定着等、生徒指導に関する情報の共有化を一層推進していただきたい。

基本的な生活習慣の定着については、平成２６年３月に策定された「第２期くまもと「夢への架け橋」教育プラン」（熊本県教育振興計画）において、数値目標として「夜１０時前までに就寝する子どもの割合」を現状値（平成２４年度）の７３．６％から、目標値として平成３０年度には７７％にすることが示されている。

天草管内の状況としては、午後１０時前に就寝する子ども（小１～小３）の割合は、７３％である（表１）。午後１０時前就寝ができていないと回答した保護者がその理由として選択したもので一番多かったのは、「午後１０時前に寝かせたいが、家族の生活時間に合わせてしまい、子どもの寝る時刻が遅くなるから」であり、子どもの睡眠時間が家族の生活に影響されている実態がうかがえる。

基本的生活習慣は、「生きる力」の土台となるものであり、本来、家庭で身につけるべきものではあるが、学校からの働きかけや地域ぐるみの取組が家庭への大きな手助けとなる。そこで、子どもたちの基本的生活習慣を改善するためには、校区で連携して取り組み、科学的根拠を分かりやすく示すことなどが効果的と考えられる。保護者会や学校・学級便り等で身体の発育・成長、心の安定、学力に大きな影響を与えることを、わかりやすく、繰り返し伝えることを推進していただきたい。

＜表１：基本的な生活習慣の定着状況＞

項　目	Ｈ２５	Ｈ２６
午後１０時前に就寝する子ども（小１～小３）の割合	６８％	７３％

（H25、26 熊本県就学前教育振興・充実に係る実態調査から）

＜資料6：H26「くまもとキッズウィーク」啓発資料＞

（４）成果と課題

○　連絡協議会がすべての中学校区において設置されており、連携カリキュラムが作成・活用されている。また、各中学校区における実態を踏まえ、連携カリキュラムや連携方法等の見直しに取り組んでいる学校があった。

●　学校の統廃合が進む中、地域によっては交流の機会が地理的に難しくなってきている。一方、連携の対象が１校となり、連携がしやすくなった地域もある。地域の実態に応じた連携の方向性を明確にし、共有するとともに、効果的な交流授業を実施していく必要がある。また、地域の実態に応じた連携カリキュラムや連携方法を見直す必要がある。

（５）次年度へ向けた重点課題

○　連携カリキュラムを活用した取組（地域の実態に応じた連携方法や連携カリキュラムを見直す）を推進する。

＜参考資料＞

・「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）平成２２年 11 月 11 日
・肥後っ子かがやきプラン（改訂版）　熊本県教育委員会　平成２３年３月
・「スタートカリキュラム スタートブック」　国立教育政策研究所　平成２７年１月

２　キャリア教育の充実

（１）今年度の課題

ア　キャリア教育に関する校内研修の充実を図る。

イ　子どもの実態を踏まえたキャリア教育の全体計画及び年間指導計画、学習プログラムの改善と充実を図る。

（２）課題解決に向けた具体的取組

ア　学校の実態や課題に沿った体系的・系統的なキャリア教育の校内研修計画への位置づけが図られるよう指導・助言を行う。

イ　児童生徒の実態を踏まえた諸計画や学習プログラムの改善と充実が図られるよう指導・助言を行う。

（３）取組の実際

ア　キャリア教育に関する校内研修の充実について

表１は、平成２６教育指導の反省等から、推進体制状況についてまとめたものである。

〈表１　キャリア教育の校内推進体制について　〉

具体的項目	小学校（%）			中学校（%）		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26
担当者の位置づけ	100	100	100	100	100	100
全体計画の作成	100	100	100	100	100	100
年間指導計画の作成	100	100	100	100	100	100
校内研修の実施	88.0	93.2	100	100	100	100
諸計画・学習プログラムの基礎的・汎用的能力の視点からの改善への取組	96.0	97.7	100	95.8	100	100

キャリア教育の校内推進体制については、すべての小・中学校において、各項目とも１００%であり、校長のリーダーリップのもとすべての教育活動において全職員で取り組む体制づくりができている。

各学校の全体計画及び年間指導計画、学習プログラムにおいては、学校訪問等ですべて確認した。全体計画等の諸計画には、キャリア教育の目標や育てたい力、各教科等との関連等について、適切に設定されていた。校内研修においては、すべての小・中学校において実施しているが、２学期までに実施した学校の割合が、６８．３%であった。

９月のキャリア教育担当者研修会では、キャリア教育担当者に対して、「キャリア教育の現状と本県の取組の方向」について講話を行い、資質の向上を図るとともに、学校の実態や課題に沿った体系的・系統的なキャリア教育を推進するよう助言を行った。

研修会では、「夢」教育サポート推進事業から講師を招き、講演会を実施した。また、協議題を「基礎的・汎用的応力を踏まえた授業づくりについて」と設定した班別協議を行った。「夢」教育サポート推進事業は、豊富な職種のサポーターが登録されており、各学校において活用いただきたい事業の一つである。今回は、ＲＫＫメディアプランニングの勝木悦子氏に、「マナーについて」という演題で講

演いただいた。

「夢」教育サポート推進事業の他にも各種関係機関が、キャリア教育の充実のために講演会や体験活動等の事業を行っている。各学校において児童生徒の実態や発達段階に応じて、各種事業の活用をお願いしたい。

講師の勝木悦子氏

班別協議では、持参した指導案をもとに基礎的・汎用的応力を踏まえた授業づくりについて協議を行った。協議の中では、「基礎的・汎用的能力の育成を意識して授業することが大切である」や「基礎的・汎用的能力を踏まえた研究授業を行うことで教師の意識が高まるのではないか」などの意見が出された。持参していただいた指導案の中には、年間指導計画や学習プログラムとの整合性が図られ、基礎的・汎用的能力の位置づけが行われているものがあった。キャリア教育の視点を取り入れた研究授業の実施については、キャリア教育の校内研修の充実や推進の点からも検討いただきたい。

（４）成果と課題

○　キャリア教育の校内推進体制が、すべての小・中学校で整えられ、諸計画の作成や校内研修の充実が図られた。

○　キャリア教育担当者研修会において、「基礎的・汎用的能力を踏まえた授業づくりについて」協議を深めることができた。

●　キャリア教育の参考資料等を活用して、各教科等の授業における基礎的・汎用的キャリア教育の視点を取り入れた授業づくりへの意識を高める必要がある。

（５）次年度へ向けた重点課題

○　キャリア教育の視点を取り入れた研究授業や授業研究会を実施し、基礎的・汎用的能力を踏まえた授業づくりの推進を図る。

＜参考資料＞

・小学校教員向けパンフレット「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）平成２１年３月
・中学校教員向けパンフレット「キャリア教育って結局何なんだ？」
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）平成２１年１１月
・小学校キャリア教育の手引き　（文部科学省）平成２２年１月
・中学校キャリア教育の手引き　（文部科学省）平成２３年３月
・キャリア教育を創る
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）平成２３年１１月
・キャリア教育を「デザイン」する
（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）平成２４年８月
・キャリア教育が促す「学習意欲」
（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）平成２６年３月